Ｎｏ．３８６【２０１９年１２月１３日配信】
青森テレビ開局５０周年（担当：村上）

こんにちは。嘱託員の村上です。

「あおもり歴史トリビア」第381号（11月8日配信）では、昭和34年（1959）にNHK青森放送局と青森放送（RAB）がテレビ放送を開始したことについてお話しました。それから10年後の昭和44年、青森県に新たなテレビ局が開局しました。それは青森テレビ（ATV）です。

昭和40年代に入り、テレビ放送が全国に普及する一方、テレビ放送に使える電波が限られていたため、多くの地域ではNHKのほかに民放テレビ局を1局しか配置できない状況にありました。そこで昭和42年、郵政省はそれまでテレビ放送に使用されていたVHF帯の電波のほかに、新たにUHF帯を使用することを決め、翌年から全国各地でUHF帯の電波を使うテレビ局が次々と開局しました。

青森県では「青森毎日テレビ」（申請者：横山實）や「テレビ青森」（申請者：武田貞助）、「北門テレビ」（申請者：中村菊三）など7つの事業者が名乗りを上げましたが、郵政省は青森県内では1社だけにテレビ放送の免許を交付する方針だったため、事業者を一本化することになりました。事業者の間で激しい競争が展開され、調整は難航しました。「北門テレビ」の申請者で青森テレビの二代目社長を務めた中村菊三によると、7つの事業者から3人ずつ発起人を出して話し合いましたが、代表者や社名を決める際には意見の対立がみられたそうです。話し合いの結果、社名は青森テレビ、発起人代表は横山實（のち初代社長）と決まりました。

社屋の建設は昭和44年4月に始まり、急ピッチで工事が進められ、8月23日に落成式が行われました。しかし、その翌日、台風9号の影響による集中豪雨が青森市を襲いました。堤川が氾濫し、桜川団地や松森地区では多くの住宅が浸水被害を受け、青森テレビの社屋も床上10センチまで浸水してしまいました。幸い完成したばかりの社屋には放送機械が入っていなかったため、大きな被害はありませんでした。

青森テレビ社屋
（2020年撮影）

系列局については当初、東京放送（TBS）を中心とする方針でしたが、フジテレビからの働きかけがあり、一時は社員の研修をフジテレビで行っていました。その後、TBSの放送を中心に日本教育テレビ（NET、現在のテレビ朝日）の番組を加えた編成とすることが決まり、TBSではベテランスタッフを青森テレビへ派遣して社員の指導にあたりました。

こうして青森テレビは昭和44年12月1日午前6時45分に本放送を開始し、今月、開局50周年を迎えたのです。

※今回の内容は『青森テレビ十年の歩み』（1978年）などを参考にしました。